



亀中だより

No. 10 令和8年5月29日 文責 岡田



For The Students!

6月5日は世界環境デーです。実は、この国際デーの制定には、日本が大きく関わっていました。1972年12月15日、国連総会で6月5日を世界環境デーとすることが決まりましたが、これは、日本とセネガルの共同提案により、採択されたものなのです。

また三重県では、毎年6月5日を全学校の一斉活動日「学校環境デー」として、そして亀山市は、3年前から5月を「学校環境月間」として、取り組みを行っています。



本校でも、よりよい環境づくりに向けて、積極的に取り組むことのできる人へと創意工夫した活動を実施しています。亀山市とシャープ(株)様にご協力いただいた環境学習会、福祉委員会によるエコキャップ回収などがその一例です。そして、5月25日には「学校環境デー」として全校で教室廊下のそうじのほか、グラウンド、校舎、駐輪場等の除草・清掃活動を行いました。



気候変動への対策とレジリエンス強化



今年の世界環境デーのテーマは、「気候変動への対策とレジリエンス強化」です。5月初旬から夏日(気温25度以上)がみられるなど、“異常気象”と呼ばれる気候が当たり前にもなりつつありますが、その影響から生態系の崩壊が心配されます。レジリエンスとは立ち直り力を表す言葉です。単に温室効果ガスの排出を減らすだけでなく、私たちの経済や社会の仕組みそのものを見直し、より安全で持続可能な未来をつくることに一人ひとりの力が必要となっています。

3年前の修学旅行で、淡路島を舞台に SDGs研修を行いました。その時の講師金子大輔さん(株式会社タネノチカラ)の言葉は印象的でした。金子さんはこういいました。

「SDGsは知識じゃない。いかに実践するかだ」「私たちは微力だけど、無力じゃない」

単に体育祭のためにグラウンド整備を行ったのではなくて、一人ひとりの力を地球環境のために何ができるかを考え、微力でも行動していける人になってほしいものです。家庭でも、節電や節水、食品のロスの削減、リサイクルや再利用などなど。身の回りで地球のためにできることがたくさんあるはずですよ。